

中東部河川改修について



井手 明 廣

井手 中東部河川改修は川の拡幅を、又、赤溝川の取り付けの改修は、今後どのように計画されているのか。

井建設課長 先日、振興局の方から説明があり、手野の遊水地に伴いまして、浜川と中東部河川については改修を行い、中東部と浜川を手野の遊水地の南側で合流させ、そのまま西の方に流し、途中この川には現在赤溝川が流れ込んでおりますけど、この赤溝川は切り離して、中東部と浜川だけを、現在の出口より少し下げたところで黒川へ出す計画のようです。又、中東部河川につきましては浜川と合流しますので、現状の川幅の2倍になると聞いています。

井手 その河川を切り離しても、浸水被害は変わらないと思う。中東部の一番最後の下降部の所のサイホンは、50年以上も経過しているので改修は出来ないか。

建設課長 サイホンは用水路ですので、河川とはまた違う工事になり、農業関係の補助事業等を持って来

なくては出来ないと思っています。

統合小学校の今後について

井手 一の宮統合小学校の今後の建設計画と総工費の財源内訳をお聞きしたい。又、以前一の宮中学校は水害に遭っているもので、そのことも考慮して、安全、安心な学校建設を願う。

日田教育課長

今隣接する道路の高さまでくらい、擁壁をきちんと上げ、浸水を防ぐ対応をとっていきます。小学校エリア部分の工事が約24億円、中学校エリアが約5億3千万円、財源内訳は、国庫補助が約6億3千万円、教育施設整備基金が約11億円、起債・元金交付金等約11億円、一般財源を約1億円で、総工費29億3045万円を予定しております。

他に、「大阿蘇火の山祭りについて」、「口蹄疫について」の質問がありました。



造成中の一の宮中グラウンド

地域資源を活用・ジビエ料理で農山村おこしを



森 元 秀 一

森元

阿蘇市で有害鳥獣対策費375万8000円、イノシシ127頭、シカ145頭を捕獲されている。農山村で捕獲した野生鳥獣を資源活用し、消費拡大に結び付けようとする例は、全国各地でも見られ、地域資源を有効的に活用する知恵と工夫があれば、ジビエブームの到来はそう遠くないと思う。国レベルでも全国統一のジビエ衛生管理指針を策定中であり、地方自治体ごとに、ジビエをおいしく食べる工夫を重ねないと、長期的な町おこしがならないだろうという地方の腕比べに期待が寄せられている。阿蘇市の今後の取り組みを答弁願う。

吉良観光まちづくり課長

資料を集めて、阿蘇でどのような形になるかなども検討していきます。

渡邊経済部長

阿蘇市の捕獲頭数だけでは難しいので、阿蘇郡7市町村の取り組みとして考えていきます。

「青少年インターネット」対策について

森元

厚生労働省では昨年インターネット依存に関する調査を、全国の中高中生を対象に実施しました。その調査の所見と、ネット依存を出さない取り組みについて、答弁願う。

阿南教育長

阿蘇市内の小中学生携帯の所有率は、7月末現在で小学生が約32%、中学生が約35%です。中学3年生でメールや通話を1日2時間以上使用する生徒が約30%という現状で学校の指導とともに、家庭での指導も重要と考えています。PTA総会等で保護者向けの講習会を開催し、携帯を買い与える時は、有害サイトに繋がらないようなフィルタリングを付けるように、また使用のルール作りを校長会で指導しております。犯罪に巻き込まれない、ネット依存者を出さないように今後とも周知啓発に取り組んで参ります。

他に、「日常生活圏域ニーズ調査が実施され分析されているか」、「子どもヘルパーが高齢者の力」、「高齢者のボランティアポイント制度推進について」の質問がありました。

※ジビエとは、狩猟で得た野生鳥獣の食肉を意味する言葉(フランス語)。

防災ヘリについて



河崎 徳雄

河崎 治療開始時間の短縮で、傷病者の救命及び後遺症の軽減等を図る防災消防ヘリの離着陸できない理由。

井野医療センター事務局長

ヘリポートの構造上の問題等は一切ありません。緊急時の使用は可能でしたが、常設の離着陸場として、粉じん対策等について県防災消防航空センターと協議中で、使用が見合わせられました。なお、既に対策を講じています。

「然」について

河崎 「然」の参加、加入応募はどのようにしたのか。

吉良観光まちづくり課長

自薦他薦で選びました。現在も募集しています。

河崎

阿蘇特産の赤牛、高菜、波野高原そばの生産農家組合等を入らせてほしいが。

観光まちづくり課長

希望者がいたらっしやれば、取材にまいます。

河崎 「然」に加入の人々と阿蘇の自然（草原、景観）の両輪で阿蘇の振興をお願いする。

観光まちづくり課長

「然」の定義である『あるがまま、という貴さ。人と自然が共作する阿蘇』が重要と思います。

地下水を育む農業の推進について

河崎 今般、農業の有する多面的機能の発揮に関する法律が出来ました。多面的機能とは、国土の保全、景観、水源の涵養の促進で県条例もでき、農協・土地改良等と推進を展開し、市内カルデラ内水田に地下水涵養等位置付け（九州の水瓶）、主食用米はもちろん、飼料米WCS等を推進し、農家の所得向上を図ってもらいたい。

本山農政課長

地下水涵養にとつて、阿蘇は大事な地域です。農家の所得を考え、作付体系を考えていくべきと思います。



WCS（飼料米）

阿蘇医療センターについて



谷崎 利浩

谷崎

市民が救急二次医療対応の新病院に期待している。その裏返しとして苦情も多い。中でも待ち時間が長いという苦情が多く聞かれるが。

井野医療センター事務局長

市民の皆様のご期待に応えなければなりません。期待の現れとして、8月の外来初診は736名あり、全体で1日平均153名受診がありました。開院後、導入した電子カルテや各種システム操作の不慣れと仕様変更の結果として待ち時間が長くなり、大変申し訳なく思っております。また、週に一回の専門医の診療日に患者様が集中されたのも影響しています。

谷崎

医師不足が原因と思うが認識はあるか。

事務局長

十分認識しております。専門医の枠も、診療日を増やすとか、診療時間を増やすとか、新病院の診療体制を整える上で、各方面に医師派遣をお願いしていますが、特に熊大

病院には継続してお願いし、医師確保に努力して参ります。

谷崎

そもそも建設決断時に医師確保の確約は無かったのか

事務局長

熊大病院の方に医師派遣及び運営について、出来る限り協力頂くとの同意を得て進めてきたところです。ただ、3月末に2名、4月末に1名の常勤医師が急遽退職されたことも一因と考えています。

谷崎

平成25年度決算では、市から2億8千万の繰出金とある。5年後からは32億円の建設償還が始まる。繰出金から交付税措置額を差引いた額（収支不足額）を累計するか、借入金とかにして、歯止めを目安を作る必要があるのでは。

宮崎財政課長

平成25年を参考にすれば、通常交付税算入分などに加え、償還金約1億5千万円の2分の1が制度上は追加となりますが、まず、医療センターでの自助努力で黒字化を目指してもらい、資金収支不足ゼロをひとつの基準として協議を行ってまいります。

他に、「火口の立入規制と対応について」の質問がありました。

市農政の主要な施策について



市原 正

市原 現在の農業情勢を、担当課としてどのように分析し、今後の主要な施策として何を取り組むのか。

本山農政課長

農政課の分野は

多岐にわたっておりですが、今必要な施策としては、災害復旧もほぼ終わり、先ずは集落の話し合いを進め、人・農地プランの充実や農地中間管理機構等の新たな事業を活用しながら、地域の中心経営体となる集落営農組織の強化を、職員一丸となつて取り組んで参ります。また、新規就農者の確保として、国の就農給付金を活用しながら、親元就農を強めたいと思います。

高冷地トマトの今後について

市原

今年の夏トマトの価格が下がり、高冷地トマトの今後を心配する農家もあるが、阿蘇トマトの生みの親とも言われている副市長の考えは。

宮川副市長

農作物、特に園芸作物に価格の変動はつきものであり、今年のような天候なら、日本一のトマ

トの産地である八代からの出荷が8月まで続き、この間の阿蘇のトマトの価格は下がります。流通量を考え、生産者にとっては苦渋の選択ではあります。5個のうち2個を切り落とすなど出荷時期の調整を図り、他産地の終期を見計らった出荷に努める必要があると思います。全国でもトマトのハウス面積が増えているのは、八代と阿蘇だけであり、流通や他産地の状況等の情報収集を進めれば、阿蘇はもつと強気にやれると思います。

市財政について

市原

今議会で決算状況の報告とその分析報告の提出がなされたが、その中で扶助費の増加は仕方ないことなのか、併せて自主財源の確保について財政課の具体策はあるのか。

宮崎財政課長

扶助費を含めた社会保障費の増加は、仕方ないことです。医療費の削減や自主財源の確保、市役所全体で歳出を抑えることに取り組みたいと思います。



選果場

阿蘇医療センターの今後について



高宮 今朝秀

高宮

素晴らしい立派な医療センターがいよいよオープンしました。限られた人員でのスタートと新しいシステムに慣れるには大変な作業が続くだろうと思いますが、数十年前の阿蘇中央病院のような阿蘇圏域の中核病院としながら、手薄な診療科目は、充実した市中の病院と連携しながら進めたらどうかと思うが。

井野阿蘇医療センター事務局長

当医療圏域の二次救急医療の再生などの課題を解決するため、移転新築し開院しましたので、阿蘇地域の中核病院として医療資源を提供するという責任を果たせる病院づくりを進めます。また、阿蘇市内にはたくさんさんの診療所、クリニック、病院がございますが、今までも連携をとりながら補完し合ってまいりました。今後、病院の施設・設備を開放し、開業医の先生に利用していただく開

放型病院をはじめ、地域連携を推進して参ります。

高宮

開放型病院と説明がありましたが、大いに期待したいと思います。センターにない診療科のある病院とは特にですが、他の医院さんとも互いに援助・補完し合う体制づくりを期待しますが如何か。

事務局長

地元医師会のメンバーとして、より一層良好な関係を構築し、ご支援をいただくとともに、紹介・逆紹介率の向上を図ります。また、病院の講堂を研修・研究の場として利用していただき、交流等を通じて地域医療水準の向上を図って参ります。



阿蘇医療センター